

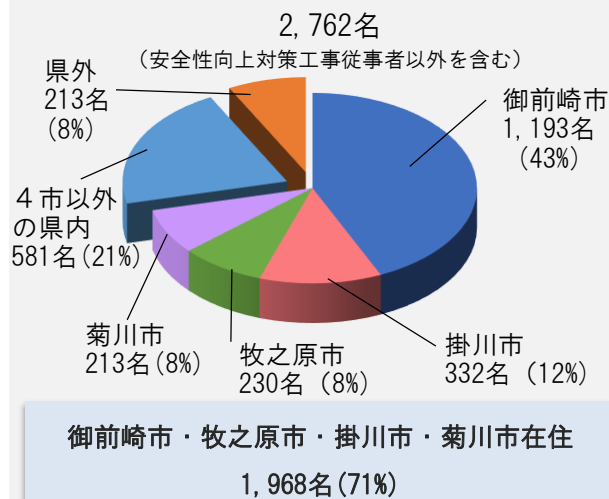
中部電力

今月号のお知らせ内容

①訓練

②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認  
(第106回、第107回、第108回)

浜岡原子力発電所従事者数(2月1日現在)



※四捨五入により100%とならない場合があります。

①訓練

重機訓練用敷地の拡大



工事の様子



訓練をおこなう重機類

津波が発電所敷地に浸水した場合など、重要設備へのルート確保のためにがれき撤去ができる重機を配備し、定期的に訓練をおこなっています。

重機訓練用敷地は2018年に発電所敷地内に整備しましたが、より**充実した訓練をおこなうため**、敷地を約2.5倍に広げる工事をおこなっています。

原子力災害対応の訓練状況



設備を扱う現場訓練



行政への通報訓練



対応検討訓練

2021年度も原子力災害を想定したさまざまな訓練を繰り返しおこないました。

設備による安全性向上に加え、それを扱うのは人であるという考えのもと、継続して必要な訓練をおこない「**現場対応力の強化**」に取り組んでいます。

②静岡県および御前崎市による津波対策工事ほか追加工事の点検および確認

当社が実施している安全性向上対策工事が計画どおり行われていることを、月1回程度の頻度で点検および確認いただいております。

第106回(11月25日)



【点検内容】原子炉格納容器内の水位計

重大事故が発生した以降、長期間にわたって原子炉が安定した状態を保つには、原子炉格納容器の水位を適切に保つ必要があります。

これまでに設置した水位計でも水位監視は十分可能ですが、新たに設置した2台の水位計により、**水位の変化をより詳しく監視**することができます。

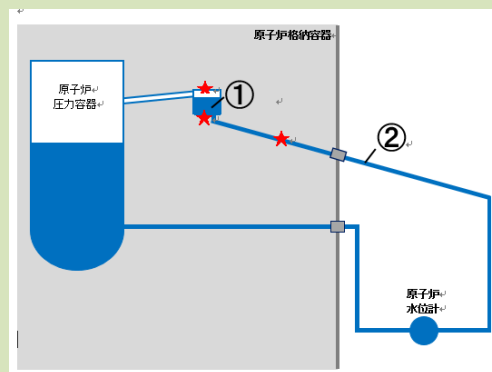
第107回(12月23日)



【点検内容】代替高圧窒素ガス供給系

重大事故が発生した場合、原子炉の圧力が上昇し破損することを防ぐため、**圧力を下げるための弁**を開ける必要があります。この弁は、高圧の**窒素ガスを供給することで動作**する構造となっています。万が一、窒素ガスが供給できなくなった場合に備えて、代替の設備の設置を進めています。

第108回(1月24日)



★温度計設置個所

【点検内容】原子炉水位計へ設置した温度計

福島第一原子力発電所では、炉心損傷により原子炉圧力容器内の温度が上昇し、①および②の水が蒸発したことで、水位が正しく表示されていなかったと考えられています。このような事態に備え、①および②に**水が保たれていることを確認できるよう温度計**を設置しました。



<静岡県および御前崎市からの講評>

- ・中部電力の計画どおりに実施されていることを確認した。
- ・今後も安全性対策工事をしっかりおこなっていただきたい。

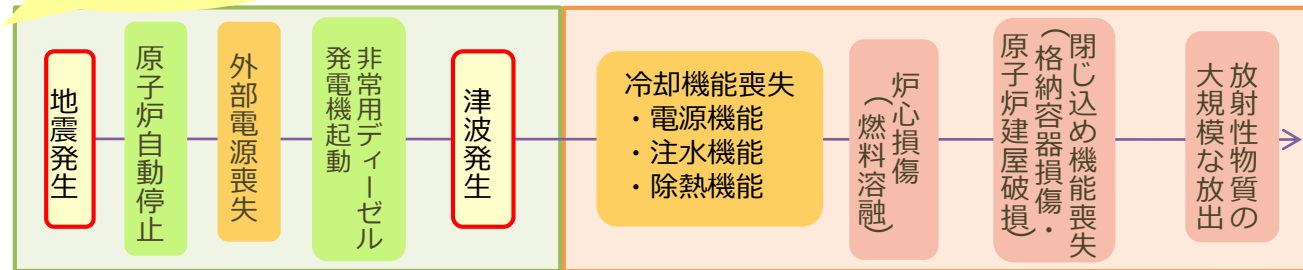


# 発電所の安全性を更に高めるための取り組み【概要】

福島第一原子力発電所の事故の教訓から、発電所では地震や津波等の様々な事態に対処するために、設備の追加配備や現場対応力の強化をおこなっています。主な取り組みを皆さまへご紹介いたします。

## ①福島第一の話

福島第一原子力発電所の事故の場合は、以下のように事象が進展しました。



発電所では、福島事故の前から電源や注水、除熱の機能をもつ設備を多重性・多様性をもって配備していますが、事故以降、様々な追加対策を講じ、更に発電所の安全性を向上させています。

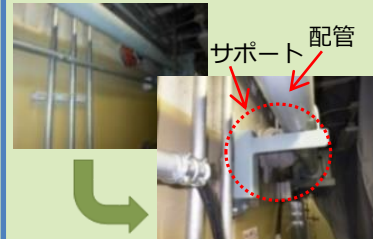
## ②設備の話

従来の設計基準の事故に加えてより厳しい想定 of 重大事故に対処するため、様々な事態を想定し、対策を実施しています。また、対策に柔軟性を持たせるために、可搬型の設備も配備しています。

【主な設計基準事故対応設備】原子炉施設の安全を確保するための機器が、一斉に機能喪失しないようにします。

巨大地震に耐える。  
原子炉建屋は岩盤に直接設置され、地震に強い構造としています。

また、配管サポートの追加をはじめとした重要な設備の耐震補強を実施しています。



津波を浸入させない。  
津波が発電所に来襲した場合、  
海拔22mの防波壁で敷地内への  
浸水を防ぎます。

万が一、敷地内に浸水した場合でも強化  
扉・水密扉により建屋内の浸水を防ぎます。



自然災害に備える。  
発電所敷地外で発生した火災  
が発電所施設に燃え移らない  
ように防火帯を設置します。



【主な重大事故等対応設備】冷やす機能を確認し、重大事故に至らないようにします。

また、重大事故等の発生を想定し、事故の進展を防ぐ機能を強化しています。

重大事故に至らせない

恒設

電源機能強化



ガスタービン発電機  
高台40m地点から  
電気を供給

注水機能強化



緊急時淡水貯槽  
高台30m地点から  
原子炉を冷やす水  
を供給(7日間分)

除熱機能強化



緊急時海水取水設備  
既設の海水取水ポンプ  
が故障した場合に備え  
同様な設備を設置

可搬



交流電源車  
恒設の交流電源設備  
が故障した場合に備  
え配備



可搬型注水ポンプ車



可搬型取水ポンプ車  
恒設の注水設備が故障  
した場合に備え配備

重大事故の発生に備える

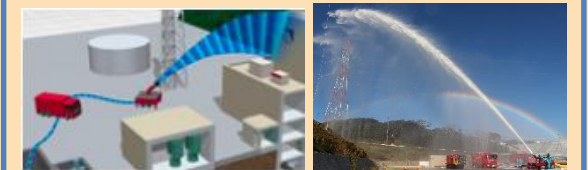
フィルタバント設備

格納容器の破損を防止するため、気体を外部へ放出する際は、放射性物質を吸着するフィルタを通し、セシウムなどの放出量を1000分の1に抑えることで避難の長期化を防止します。



放水砲設備

原子炉建屋の水素爆発を防止するため、建屋から水素を排出した際に放水砲により放射性物質を地上に落とし放射性物質の拡散を抑えます。



重大事故等に柔軟に対応するため、可搬型車両やその保管場所を確保し分散配置します。対応現場へ出動できるよう、複数のアクセスルートの確保に取り組んでいます。

## ③現場対応力の話

配備した設備が期待通りの機能を発揮するためには、扱う「人」の「現場対応力」が必要だと考え、強化しています。

【初動対応の強化】

緊急時即応班を設置し、運用開始に向けて増強しています。



役割 (2021年4月現在 19名)

- ・戦略検討
- ・アクセスルート確保
- ・可搬設備の操作等
- 現場対応

【手順の整備・資格の取得】

設備導入に伴い、必要な手順の追加や免許等の資格の取得をおこなっています。



<取得免許例>

- ・大型自動車免許
- ・けん引免許
- ・移動式クレーン免許 など

【訓練の充実】

目的に応じて様々な事故・事象への対応を網羅的に確認・強化し、緊急時に対応する組織の能力を総合的に向上させます。

総合訓練



主に現場や発電所外との連携、対応手順の確認を目的に実施しています。

図上演習



判断能力の向上を目的とした訓練を2015年度から実施しています。

個別訓練

新たに設置した設備の手順を確認するとともに、可搬設備の操作等に必要力量の向上に努めています。



シミュレータ訓練



電源車操作訓練



可搬型モニタリング  
ポスト設置訓練

今後も、安全最優先で、浜岡原子力発電所の運営に努めてまいります。また、地域の皆さまからいただいた声に丁寧にお応えし、皆さまに信頼いただける発電所を目指してまいります。